

高齢者・地域の現状や課題			
身体的・精神的・社会的フレイル状態になりやすい	高齢者の知識や経験を活かした社会参加の場の不足	介護予防サポーター受講者の確保と活動の場へのつな	単身高齢者の割合が高い
熊本市後期高齢者医療費の1位は傷病別で見ると、1位骨折、2位慢性腎臓病、3位関節疾患である	地域活動に積極的に参加する者や、通いの場への参加者の固定化	介護保険利用増大を踏まえた全世代に向けた健康づくりの強化	認知症の方々への理解と地域での見守り体制
骨折と健診項目との関係を見ると ①貧血がある②BMI18.5未満のやせがある③女性である④腎機能（eGFR45未満）が低い	高齢者や地域活動を支える担い手不足	地域住民主体による活動の創設と持続に向けた支援強化	コロナ禍による「通いの場」の運営
貧血があるとない人と比べて、医療費、介護費も高い	コロナ禍における外出制限からの筋力低下や気分が落ち込む住民の増加	介護保険サポーターポイント事業の活用の伸び悩み	
後期高齢者健診および歯科検診受診率が低い			



解決のために必要な整備

区の目標				
老いに負けない健康づくりと介護予防に取り組もう！		これまでの経験から役に立てることはまだある。生きがいを見つけ外へ出よう！	当事者の気持ちに添えるよう多職種で力を合わせよう！	いざという時もみんなで支え合えるよう、日頃から声をかけ合う近所づきあいをしよう！
実施内容	① 骨折の大きなリスクである貧血やフレイル状態等の早期発見のため、後期高齢者健診・歯科検診のPR・啓発	① 介護予防サポーター養成講座内容の再検討とサポーターのスキルアップ、および地域とのマッチング整備	① 「地域デビュー応援事業」等での、通いの場等のニーズに関する情報提供	① おたがいさまのまちづくり研修による校区の特性に応じた地域包括ケアシステムに関する地域住民への啓発と協議
	② 通いの場や訪問等によるチェックリストからのタイムリーな短期集中予防事業へのつなぎと高齢者一体化事業との連動	② 地域支えあい型事業（B/D型）の更なる充実のための働きかけと情報提供	② 自立支援型地域ケア会議にて把握した個別課題からの地域課題の共有と支援体制づくり	② ICTや地域の若手人材を活用した通いの場づくりのノウハウの共有と拡大
	③ 「通いの場」として、多世代が集える場をつくっている校区活動の共有	③ コロナ禍での新しい情報収集や発信ができるよう「くまもとデジタルサポートセンター」の活用	③ より若い世代からの健康づくりと高齢者の健康づくり活動の共有（子育て支援活動や校区単位の健康まちづくり等）	③